

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第 6 号）について（送付）

本年の果樹カメムシ類越冬世代成虫の発生推移について取りまとめましたので、防除指導に利用していただくようお知らせします。

#### 記

#### 1. 発生状況：

- 1) 本年のチャバネアオカメムシの越冬成虫数は 13 頭（県内 16 地点の合計）で、平年（9.2 頭）および昨年（4 頭）より多かった（平成 24 年度技術情報第 15 号）。
- 2) チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数は、気温が高くなった 5 月第 3 半旬以降各地で平年より多くなり、特に宇城市では 6 月第 5 半旬に 123 頭（平年 31 頭）と例年にない発生が見られ、今後の状況を注視する必要がある。一方、フェロモントラップの誘殺数は宇城市松橋で 5 月第 3 半旬から、他の地域では 6 月第 3 半旬頃から平年より多くなった。（図 1～3）。
- 3) チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップによる 6 月第 1～5 半旬の累積誘殺数は、宇城市松橋および天草市が平年比多、合志市は平年並であった（表 1）。
- 4) 普及指導員や病虫害防除員への聞き取りによると、各地でカメムシ類の発生は確認しているものの、今のところ被害は認められていない。
- 5) 環境省が 4 月に発表した熊本市における平成 25 年春のヒノキの花粉飛散状況は少なかった。このため、6～7 月の主な餌であるヒノキ球果の結実量は、平年より少ないと予想される。

#### 2. 防除対象作物：果樹類（カンキツ類、ナシ、カキ、モモ等）

#### 3. 防除上注意すべき事項：

- 1) 現時点での被害は認められていないが、越冬調査、予察灯、フェロモントラップ調査から、本年の越冬世代成虫密度は高いと推測され、餌となるヒノキの球果量が少ないため、園地への被害が予想される。
- 2) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域や園地による差が大きく、同一園内でも局在するので、園内を観察し早期発見、早期防除に努める。なお、カメムシ類は夜になると園外から侵入し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効である。
- 3) 被害が認められた場合は直ちに防除を実施するが、薬剤の使用回数、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物への農薬飛散（ドリフト）に注意する。

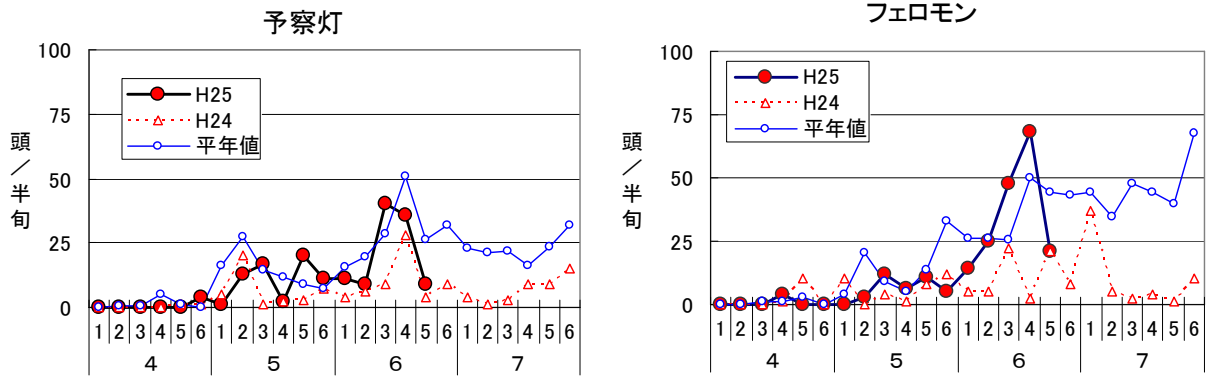


図1 合志市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：農研センター）

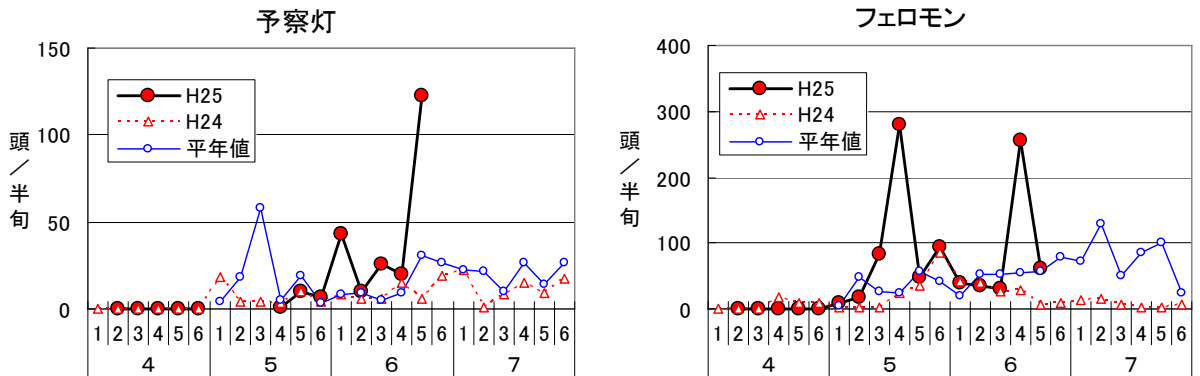


図2 宇城市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：果樹研究所）

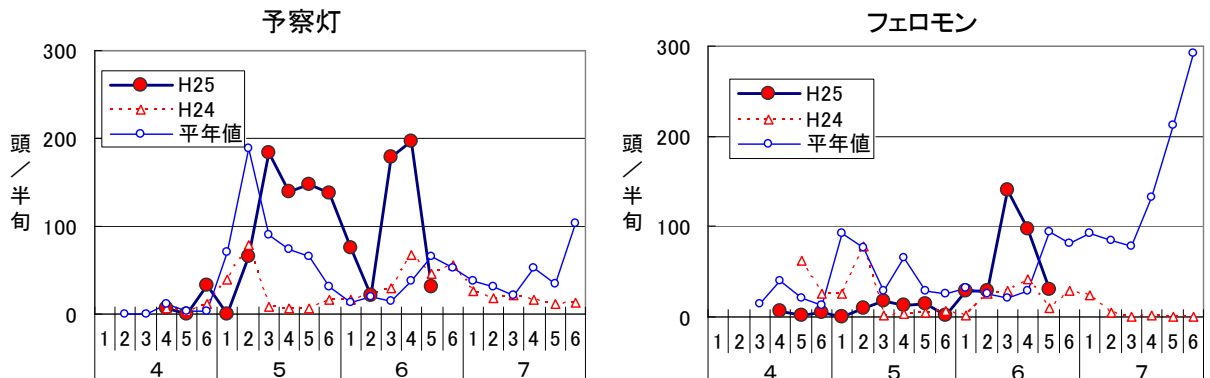


図3 天草市におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（設置場所：天草農業研究所）

表1 各地域におけるカメムシ類の誘殺状況（6月第1～5半旬合計）

地域名	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ	
	予察灯	フェロモントラップ <sup>o</sup>	予察灯	フェロモントラップ
合志	105 (141)	176 (178)	52 (161)	1 (2)
松橋	222 (62)	419 (200)	1,196 (75)	217 (41)
天草	503 (151)	325 (201)	1,835 (297)	25 (9)

単位：頭、（ ）は平年値

熊本県病害虫防除所  
（生産環境研究所）  
担当：清永  
TEL 096-248-6490